

規範要素		
アカウントビリティ 信頼性 品質	学際性・多様性	幅広い課題の考慮
		複数の視点の考慮
	科学的信頼性	
	中立性(無党派性)	
	公益性(社会的公平性)	
	プロセスの透明性	
	プロセスの公平性	
	議論の質	参加的
		熟議的
	コミュニケーション能力 (実践者の能力)	表現力 (口頭プレゼンテーション能力・文書プレゼン テーション能力・イラストレーション・アート)
		ファシリテーション能力 (モデレータ能力・ファシリテーション能力)
	適応力	柔軟性
		即応性
	現実認識	状況把握
		社会的なニュースへの対応
ネットワークの 構築・利用・維持	外部資源の活用	
	結果の普及:アウトプットでのネットワーク利用	
	政策へのリンク	
	専門家(メディアも含む)を介してのリンク	
	市民を介してのリンク	
メディア対応力		
先見性	将来予測	
	各主体の価値判断の一致点を見出す能力	
運営に関する規 範	組織としての信用	アクターとの適切な距離
		個人的信用
		マネジメントの透明性
		資金源の多様性
		支出の抑制
		政治的リスクの回避
	持続可能性	安定した資金源・収入
		インフラの持続
		就業者の確保
		組織自体を持続させる意味

品質(科学的信頼性)

事例名称	△△PJ	△△PJ	△△PJ	△△PJ	x x PJ	x x PJ	x x PJ	□□PJ	□□PJ	□□PJ	SMC
事例名称	専門家の選定	イベントを行う際の専門家の選定	資料の配布	x x PJ	事例名称	事例概要	事例概要	情報提供時の留意点	情報提供時の留意点	□□PJ	SMC
事例概要	市民参加を旨とする対話の三段階モデルを構築するにあたり、専門家が多かった	市民参加を旨とする対話の三段階モデルを構築するにあたり、専門家が多かった	無作為抽出で選抜した市民の知識の均一化	CBRI:依頼内容が科学的でなかったことへの対応	事例概要	事例概要	科学的な解として正しいかどうかも、アジェンダ設定を重視する設計もありうる	提供した資料や情報(値)の妥当性に対して指摘があった	提供した資料や情報(値)の妥当性に対して指摘があった	□□PJ	SAコメント依頼の専門家の選定が困難
背景や経過、原因	専門家の選定にあたっては、各分野のなかで一定の評価を受けている人であると同時に、個人の信頼性も念頭においていた。信頼性の評価とは、これまでその問題についての摩擦を起こしていないかどうかということを見えるかどうかという視点を重視した。	専門家の選定にあたっては、各分野のなかで一定の評価を受けている人であると同時に、個人の信頼性も念頭においていた。信頼性の評価とは、これまでその問題についての摩擦を起こしていないかどうかということを見えるかどうかという視点を重視した。	GMどうみん会議出席を依頼した無作為抽出にて選抜した市民は知識に偏りがないことが予想された。そのため、事前資料を配布し、同一の情報量をもつて議論に参加することで質を担保した。	CBRIにおいて、依頼の多くが科学的な解決を直に求めていないものであった。	事例概要	事例概要	科学的な解として正しいかどうかも、アジェンダ設定を重視する設計もありうる	提供した資料や情報(値)の妥当性に対して指摘があった	提供した資料や情報(値)の妥当性に対して指摘があった	□□PJ	トピックによりコメント依頼ができる専門家の選定が困難
知識化	医療分野の専門家コメントやレビューを依頼する際は特に、分野内の人々関係に注意を払う。複合的な問題についてはそれぞれの専門家コメントでできる範囲でレビューしてもらい、複合意見を併記することで担保できる可能性がある。分野の特性を統合実装の中で共有するよ	対話型討議を行う際にはお互いの信頼関係が重要であるため、専門知識だけでなく、周囲との関係性が保てるかどうかを重視した専門家選定が必要である	個々人が持つ情報量の差で議論の質が下がる可能性があるように留意すべき	課題の深し方としてpTAなどを使って市民の疑問を収集していくことや依頼の取捨選択を行う必要があった	事例概要	事例概要	科学的な解として正しいかどうかも、アジェンダ設定を重視する設計もありうる	提供した資料や情報(値)の妥当性に対して指摘があった	提供した資料や情報(値)の妥当性に対して指摘があった	□□PJ	今後このような状況は頻繁に予想されるため、適切な専門家を選ぶ根拠の明確化が必要
背景や経過、原因	複数の専門家へのレビューを依頼することが、協力を得られなかった。カーボンフットプリントに関するpTAでは、手続的な問題や医療分野では、複合的な問題に関する専門家コメントの選定が、協力を得られなかった。カーボンフットプリントに関するpTAでは、手続的な問題や医療分野では、複合的な問題に関する専門家コメントの選定が、協力を得られなかった。	専門家の選定にあたっては、各分野のなかで一定の評価を受けている人であると同時に、個人の信頼性も念頭においていた。信頼性の評価とは、これまでその問題についての摩擦を起こしていないかどうかということを見えるかどうかという視点を重視した。	GMどうみん会議出席を依頼した無作為抽出にて選抜した市民は知識に偏りがないことが予想された。そのため、事前資料を配布し、同一の情報量をもつて議論に参加することで質を担保した。	CBRI:依頼内容が科学的でなかったことへの対応	事例概要	事例概要	科学的な解として正しいかどうかも、アジェンダ設定を重視する設計もありうる	提供した資料や情報(値)の妥当性に対して指摘があった	提供した資料や情報(値)の妥当性に対して指摘があった	□□PJ	トピックによりコメント依頼ができる専門家の選定が困難
知識化	医療分野の専門家コメントやレビューを依頼する際は特に、分野内の人々関係に注意を払う。複合的な問題についてはそれぞれの専門家コメントでできる範囲でレビューしてもらい、複合意見を併記することで担保できる可能性がある。分野の特性を統合実装の中で共有するよ	対話型討議を行う際にはお互いの信頼関係が重要であるため、専門知識だけでなく、周囲との関係性が保てるかどうかを重視した専門家選定が必要である	個々人が持つ情報量の差で議論の質が下がる可能性があるように留意すべき	課題の深し方としてpTAなどを使って市民の疑問を収集していくことや依頼の取捨選択を行う必要があった	事例概要	事例概要	科学的な解として正しいかどうかも、アジェンダ設定を重視する設計もありうる	提供した資料や情報(値)の妥当性に対して指摘があった	提供した資料や情報(値)の妥当性に対して指摘があった	□□PJ	今後このような状況は頻繁に予想されるため、適切な専門家を選ぶ根拠の明確化が必要